

世界的な二つの幼児教育

マクミラン、ナーセリー、スクール (英國)

メイゾン・デ、プティ (瑞西)

ロンドンのマクミラン・ナーセリー・スクールと、ジュネーブのメイゾン・デ・プティとは、世界的に有名な幼児教育の場所です。ノロムビアのヒル女史に、ヨーロッパでは何處を參觀しませうかと尋ねた時、すぐに紹介してくれた中でも、この二つは主なるものでした。實際二つとも興味あり又研究のれうちあるものでした。丁度最近の「キンダーガルテン、エンド、フアストグレート」と「アメリカン、チャイルド」とに、これに關するいゝ記事が出てゐましたから譯して貰ひました。(倉橋生)

保育學校と母性

マアガレット、マクミラン

メリー女王が、其御子達の保姆を補助せられると同様に、我々はデットフォードの我が母達を扶助しなければならぬ。

母達の身分や力量に於ては確かに大なる差違が

あるが中心とすべき事實は同一である。即ち私共は母達と其子等を助けなければならない。母親の家庭、財産、時には其智識も僅少である。此處に我々の責任、希望、努力、總ては、却て多大であ

る。そこで私共は奉仕せねばならぬ。如何に奉仕の必要であるかといふ事は、子供達が始めて來る日に最も明瞭に感じられる。

一九一一年に妹と共にキヤムプスクールを始めた時に我々は多くの正しい調査を行た。そして醫療訓練の爲の臨床講義や、心理學の實際を以て多くの興味ある仕事を行た。それは初期の報告に發表されたもので、その中非常に著しくあつたと云一つの事實は此の哀れな土地の殆ど總ての子供達は、一般に異常と信じられて居る處の畸形の爲に苦しんでゐる事である。彼等は此土地では異狀ではないが正常兒として世に斯様な事があり得るでしようか。併し我々が之に依てある區域の標準兒を指示しようとするならば、それは困難な事である。或年代の、又は或土地の標準兒は他の時代又は他の土地の正_レ常兒ではない。我々が異常兒を希望すれば正常兒に考る事が出来る、といふ事は

是非知て置くべき事である。どの區域でも標準をあげ得るごく簡易なしかも非常に早い方法がある。今は過渡時代である。新しい國民の時代である若葉が花に變る時である、新しい種族が一日の中に産れる事すらある。

社會事業、それは非常に極端に云へば、それは調査、研究事業である、我々はいかなる勞力をして、子供達の救ひに對しては大膽にしなければならぬ。若し我々が、幼稚園や保育學級を單に認めてのみ居るならば、現代に於ても近き將來に於ても大なる社會的變化を見る事は出来ない、然し前の時代の警告に依て、ごく僅づゝでも、遠からず精神的に我々の問題に接近して來る、第一に大な學校を持つ事と、第二に生徒と勞働者との異た群に對して異た訓練課程を授ける事に依て、我々は眞の奉仕を爲る機會を得、又研究に依て實際變化を來した事實を持つ事が出来る。有福な母親

の子供室は狭くて限定されて居る。實際此の事を
知て家から家に子供を連れ出す母がある、丁度貧
しい母達に向ふみずに、街路に子供を出すよう
に。

然し之等の場所は、子供の世界ではない。其處
で二つの階級の子供達がたえず富貴の中の危険と
貧困の中の危険な醫術や道徳に曝されながら生活
する、其の結果は、單に調査、研究の中ではなく、
實際、我々の目前に、我々の大きな保育學校の中
にある。私達の小さい子供達は二才の時に保育學
校に來る。彼等は規則として來ようとはしない。
丁度初聲と共に地上の生活を始める様に、保育學
校に於ける生活を始めるのである。彼等は已に種
々な方面で害されて來た、然し全體として子供達
は不思議に保護されて來たのである。眼科醫の大
家が、二百五十人の五歳以下の保育學校の子等の
就にて、ラチエル・マクミラン・センタアに於て

行た最初の立派な調査報告には、全然犯された眼
は二バーセントで、他の九十八バーセントはまぬ
がれて居た。

實際盲目な子は一人も居なかつた。かように自
然は親切ではあるが、自然そのまゝに保護しては
ゐなかつた、といふのは保育學校に來た子供達の
中、八十バーセントは、脊髄病で苦しんで居た。
しかしのがれる道はいくらもある。一年の中に一
バーセントの子供は脊髄病に苦まないやうになつ
た。しかしこれはは硝子張の室でも作るのだけ
れば、屋内の學校では見られない結果である。

然し、我々は日あたりのよい、廣々とした、自
然の庭を、技巧的な最上の施設よりも、寧ろ希望
する。そして年のたつに従て我々は、英國の教育
當局が、何故屋内の幼兒學校を認可したかを疑は
すすには居られなくなる。

屋内では最上の幼兒學校ですら失敗を示してゐ

る。即ち土地を見出すにも失敗して居り、微風も吹かず、また英國の曇りがちな空には日光の恵も少ない。大い學校を持てゐる故に調査・研究をする事が出来る。そして診斷所の設備があつて、學校と聯絡が付いて居れば實際的の仕事が出来る。大い學校の偉大な價值は、さういふ學校が出来るといふ事實によるものではない、調査人員の多く平均數を表し得るといふ點にある。更に大なる價值は社會の模範を創造する事が出来調和する事が出来、同時に訓練を受けた教師のみでなく、社會の子供を愛する人や學生に對しても門戸を開放する事が出来るからである。此の事は確かに我々の希望して居る處であり、未來の母のみならず未來の教師も、未來の議員のみならず未來の子守婦と健康訪問者も、未來の醫師のみならず未來の社會の婦人もまた希望する處である。總の子供を愛する人は、彼等が、如何にして幼年時代によりよく

奉仕出来るかを學ばんと希望して居る。

米國は富である。大なる資金がある、目ざましい未來を持てゐる。又難題も持て居てる。計畫がすべて新しく困難である。我々は敢て米國に教へ又忠言せんとするのではない。我々が苦むした小さい時の塔から本國を見渡すと、我々は最近十年間多くの難しい試練を経て來てゐる。そして我々の目はどれ程多くの涙で洗はれた事であらふ。科學又は生活に於て眞に何等かの進歩を致した第一條件として、今我々は、地上の總ての我々の子供等を救はねばならぬ。現在我々は子供達總てを注意する事すら出来ぬ、我らは彼等の困難や疾病を取り除く事すらしてゐない、其故我々は、我々の學校の基礎に於て、新しい平均児を造る營養を與へる事を望む。我々は學校と保育の新しい規定を生活の中に持ち來さなければ之を實行する事は出来ない。我々は今之を試みつつある。理想保育

に非ずして、十分に育てられた子供の世界を如何にして作るべきかは問題である。我々は、子供達が母を要すると同様に他の人をも要するといふ事を知つてゐる、我々は子供自身の家が彼の世界の振り出してある事を知てゐる。其振出しは子供が人生への唯一の出發點であつて、彼は二十歳になつて初めて好奇心を持ちはじめのではない。二歳の時には生々として美しい。我々は、子供が成人の様に議論の出来ない事又成人にならぬ前にでも丁度産れる前から眼があるやうに、議論し得るといふ事を知てゐる。我々が子供が使用する事の出来ない、理解しない、價值を知らない物を與へなければならぬ。やがて知らず／＼の中に子供達は使用しはじめ、理解しはじめそして、價值をも少し知るやうにならせる爲に、其故我々は子供を大きな場所に連れて行き、何百といふ大きなクラスの一部になつてゐる群の一員とする。

彼は、自分のベッドから覆のある多くの花園を眺め得る、又遊び室から空を眺める事が出来る、枝の小鳥や森の小鹿を静まらせて置いてたとしても、種々な動作や噂が、彼をどれ程慰めるかは驚くべき事である。牢獄のように壁でとちこめない時、其處には活々とした、地上の生活を富まし形成させる印象の雨が注ぐ。此處に、今、我が教育に供給せねばならぬ大なる真理がある。單なる美辭には何も學ぶべきものはない。我々は訓戒に依て教へたり訓練したりする事は出来ない。中世紀の講義主義な仕方に盲従する事はも早や出来ない。唐黍の種を蒔くやうに、我々は新しい衛生學の説を播かねばならぬ。我々は母の腕の様に我々をかこむ自然の腕を感じ、自然を愛する事を學ばねばならぬ。

我々は計畫し織組立てなければならぬ、そして蒔く人と種の爲に建設しなければならぬ。我々の

學園は殊更作らずともよい、收穫は明かである。我々は鍊瓦はないが多くの花を持てゐる。壁もないが種々な動物が居る。公認の訓練を経た教師は優れて居る。

我々は彼女を持たねばならぬ、勿論彼女は此世界を守る女王であつて母親以外には彼女のみが此世を支配して得るのである。母親は保育園を見たり又自分の隨意に訪問する事が出来る、彼女達はこれまでのように子供に就て漠然と考へ、他の良くない事に費した時間の代りに最上の感じや考をたどる爲に今は元氣は晴れやかな新しい母になつて來た。彼女は其の大なる勤めに對してもう孤獨ではなく、家庭といふ壁によりてさへぎられたり縛られる事もない。

私は吾々のシエルタアについてはもうすでに何べんも言はれてゐるから述べやうとしない。それ等は子供を愛しそして子供の希望を理解した人に

よつて計畫されてゐる。

そして、それ等は、低い垣根や、小さい門の内に、六月の若葉のゆらぐ間から見えるひろい屋根や、陰多く掩はれて常に暑さや雨をさへぎる道となつて、實現されてゐる。又それ等は暖い戸内の浴室や、ひろい、長方形の走り場や、イタリアの大畫家の筆觸の如きやわらかさを以て畫かれた壁畫のある壁、彩色されたアーチ等となつても表はされた。

これは深い「愛の泉」からほとばしる愛によつてなされた事である。

「これは、きれいだ！」

と、誰でも此處に來た人は感じる、殊に藝術家や母達は一層感じる。

幼稚園は九時からではなく朝の八時から始まる。そして最初の間は色々な事をしなければならぬから最もいそがしい。

想像して御覽なさい。吾が三百人の母のうちの一人が、さへかへる一月の早朝、幼い兒をかかへて側には、三つか四つ位の子供の手をひいて、我が門へ入つてくる所を。

子供達はそんなに遠いところからは通はない、子供達は、近くの街にすんでゐる。そして、此所や他の町の人々は貧困のため、寒く、又大かたの人は、ねむたくさへなつてゐる。そこに、歓迎すべきものがある、親切の手は彼等を救ふべく延ばされた。

若い少女達は彼等の赤ん坊を熱心に歓迎する、空は灰色であつても、天幕は青や桃色の雨覆ひで晴れやかで若いばらの様な顔をしてゐる、小さい者達は彼等のシエルタアである戸内の浴室へ行くするとそこには豊富に水は勿論お湯まで備つてゐる。そこで彼等は身體をあらためられ、洗はれ、そして完全に氣持よく出来てゐる僅かの衣服を、

個人個人に保育される様に、各自に適する様に着せられる。九時には朝食の席へ皆がつく。そして九時半には「霜さん」かその弟の「雪さん」が降るとそれに、知らず知らず足拍子をとつてゐる。

幼い子供達の天幕からは笑ひ聲や、小さい足のちよこちよこあるく音がきこえてくる。

一方、愉快に燃えさかる火の近くには新しく入つて來た者に、氣壓計が下つたから寒くなつたのだと云ふ事を初めて教へてゐる。

卓子の上や壁にそふて、彩色した圓板や、色のある毯や、織紙や、色を度合によつて並べたものや、組合はせる様になつてゐる文字や、繪や、繪本等色々な種類の器具がある。

その外に庭には、ブランコやすべり臺や、ふみ段等よい器具がある。私等はその一部分を冬には失ふが、全部ではない。

二年生がよく働く、彼等はたくさん習はねばな

らない事がある。お晝すぎには二品料理が二年生の當番のお給仕で出る。

十二時半には三百の小さい者達は寝ついてしまふ。そこには太陽の見舞はない日はない、夏か冬か、又は朝か午後、吾々は太陽の偉大なる治療力と歡喜とを子供達にもたらしめる。それは彼等の生れて來た時からの權利であつて、今再び彼等に戻つて來たのである、いつも、午後や、天氣のよい朝、彼等は太陽の照らすところで、遊びまわり働き、そして眠る。

これは吾々の最も速い治療法の根源である、一年とたたずに、すべての脊髄病は治つた。もう、貧血病もない、もう暗い死の恐怖や、死よりも悪いすべての物に對する恐怖もない。

夕食が濟んでから五時から五時三十分までに、長い列をした、子供達の母や姉達が同廊へ子供をつれに來る。子供の胸や眼が健康になり、そして

長い虚弱や不幸の嚴しい經路が段々とすぎ去つて行くのを知つて、喜び又不思議がる。もし子供がただせむし病だけの子供であるならば、他の色々な病氣はここで治つたのである。もし三つか四つの我々のどの幼児でもまだ、しせむ病であるならそれは吾々は失敗した。しかし醫師は、吾々は失敗してはゐないと云ふだらう、この學校へ一年出席した後の子供には脊髄病はゐないと云ふだらう。

この仕事のすべての費用は、すばらしい値段ではない、それは各々の幼児につき、たつた、一年間に十一ポンド十五シリング(百十七圓五十錢位)しかかからない。

神はアメリカに「勇敢なる翼」を與へられた。そして、強く奉仕せしめ、早く飛昇せしめられた。我々は古い時代に、氣弱く、忠實を疑ひ乍ら開拓者が大なる犠牲を賭して始められた仕事を。

アメリカが如何に發達せしめ、そして成し遂げ

るかを眺めてゐる。

私は我が妹の事業の空しくなる事を恐れてゐた

しかしそんなことはない。

「正義な仕事は神の手の中にある」。(京子)

ジュネーブに於ける子供の家

ジオヨン・レスタ―

私は、バラス、デ、ナシヨンを出て、ジュネーブ湖畔の廣々した遊歩道を散歩した。朝の空氣の中にクツキリと晴れたモン、ブランの雄姿が巍然として聳えてゐる。がこの雄姿も今の私の心にはそう大してはつきりとは映らない。今私は、もつと小さい、もつと手近な事を考へてゐるのである。即ち或る有名な子供の學校の事を考へてゐるのである。この學校はジュネーブの郊外にあつて、ルツソー學院と稱し、熟練した親切な指導の下に監理されてゐる。私は紹介狀を手にしてその校門をくぐつた。十月末であるのに尙ほ木々の緑は鮮

かである。その木陰に包まれてゐる美しい「小供の家」の廻りを歩いたり、茂みの裡の小道を辿つて行つたりする中に、私はその邊にある花園や、小鳥の囀つてゐる森の中にぽつ／＼と見える素朴な家に氣がついた。いかにも子供達が拵へたものらしい。併し、あたりは妙にしんとしてゐるので私は自分の来る日を間違へたのではないかしら等とも見へたが、とにかく參觀名簿を改めて見た、やつぱり今日は自分の来る日なのだ。安心しては入り、帽子や上衣をかけたがあたりののがみんな小さな可愛いゝのばかりなので、自分のが如何にも